広報おうしゅう
Vol. 153
■発行日／平成30年11月8日 ■発行／奥州市 〒023-8501 奥州市水沢大手町一丁目一 ■電話／0197㉔2111 ■印刷／鈴木印刷㈱

❶白山橋からの下流（西側）の眺め。大小さまざまな岩の間を水が波打ちながら流れる　❷同上流（東側）。右側から大きな岩がせり出し、きれいな曲線の流れを描いている。水の流れは比較的穏やか

奥州遺産

―ときを越え受け継がれるもの―

第98回

白山渓（はくさんけい）

＝江刺玉里字白山通＝

玉里を東西に流れる人首（ひとかべ）川が白山皇大神宮の手前で大きくカーブした先にある白山渓。水を深くたたえていることから白山淵とも言われるこの地に「宝昌の玉」伝説は伝わる。

昔、白山神社（現白山皇大神宮）の別当が淵のほとりで木を切っていたところ、誤って鉈（なた）を淵に落としてしまった。鉈を追いかけ淵に入ると、底に立派な御殿があった。そこで機（はた）を織っていた娘からもてなしを受け、白髪の老翁から、手を触れるとどんな日照りの時でも雨が降るという玉を授かった。別れを告げ御殿の門をくぐるといつしか淵のほとりに立っており、ひとときのことと思っていたが家に帰ると数日が経過していた。玉里という名前はこれに由来するとも言われている。

秋は木々が色とりどりに染まり、水面（みなも）の白さとの鮮やかなコントラストを見せる白山渓は、これが竜宮城の華やかさかと思わせる。

広　告

◉広告の問い合わせは、㈱東広社（☎ 0197 ㊹ 1523）